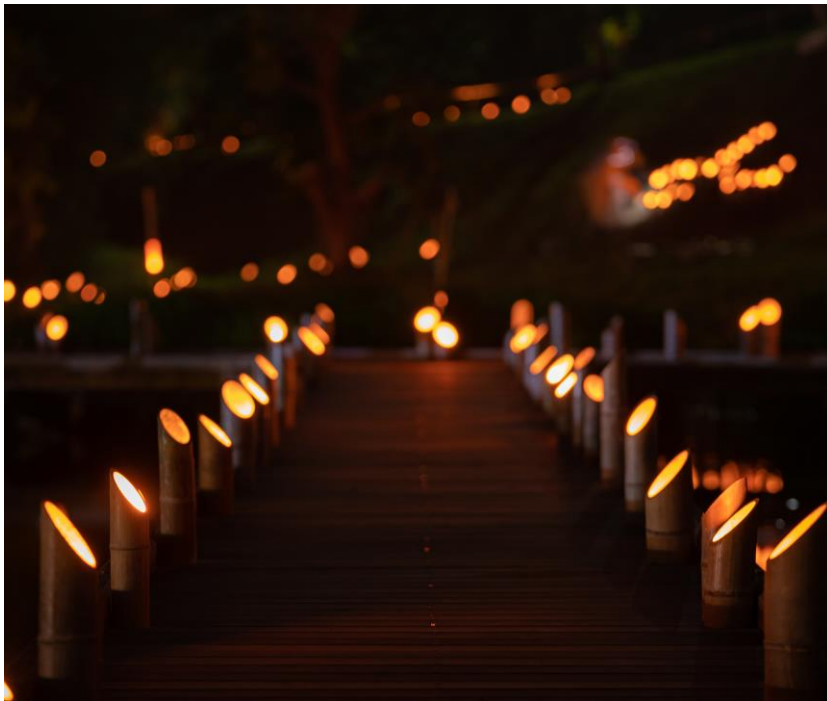


厳島湿生公園活性化事業

～竹灯籠の夕べ あかりの祭典～

巖島湿生公園活性化事業



▶ 竹灯籠の夕べ



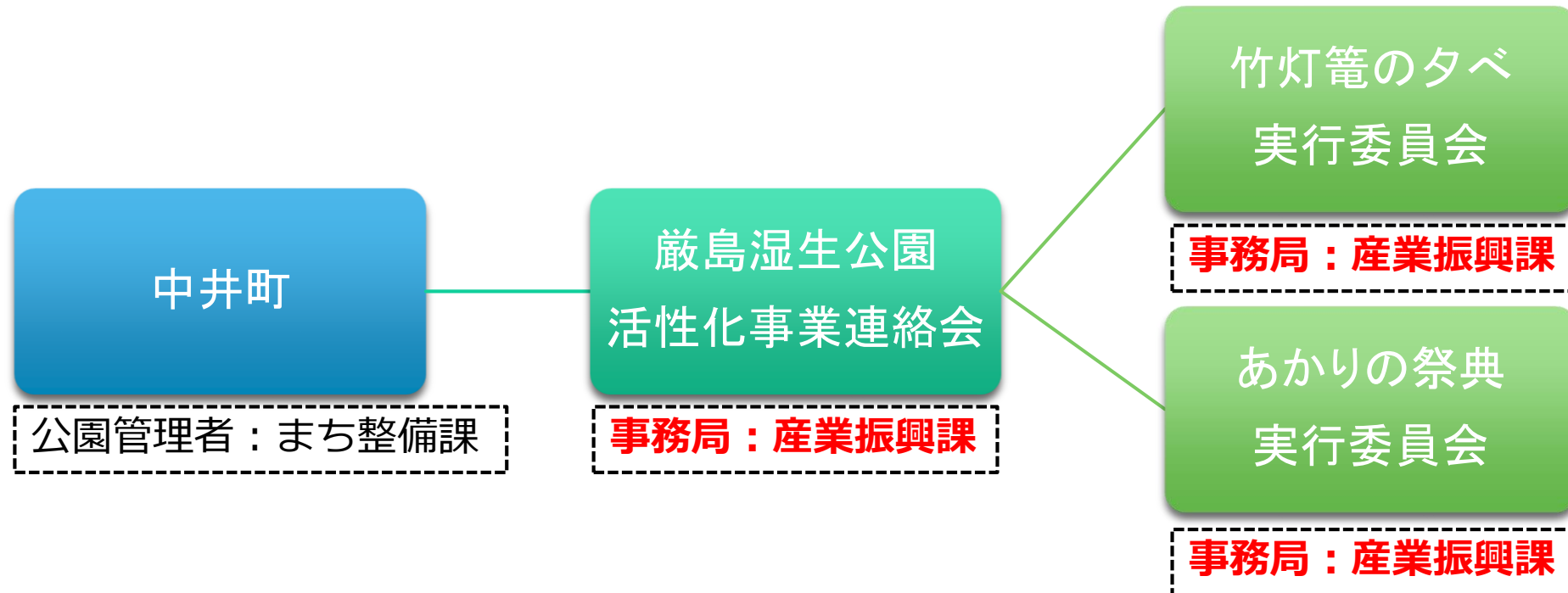
▶ あかりの祭典

事業の整理ポイント

観光資源の少ない中井町にとって、どちらも数少ない重要な観光イベントになっています。

- ▶ 厳島湿生公園の活性化（観光イベントの開催）
- ▶ 費用と事業効果の関係
- ▶ 作業の効率化（多大な作業負担）
- ▶ 地域や観光サポーターとの関わり（官民連携）

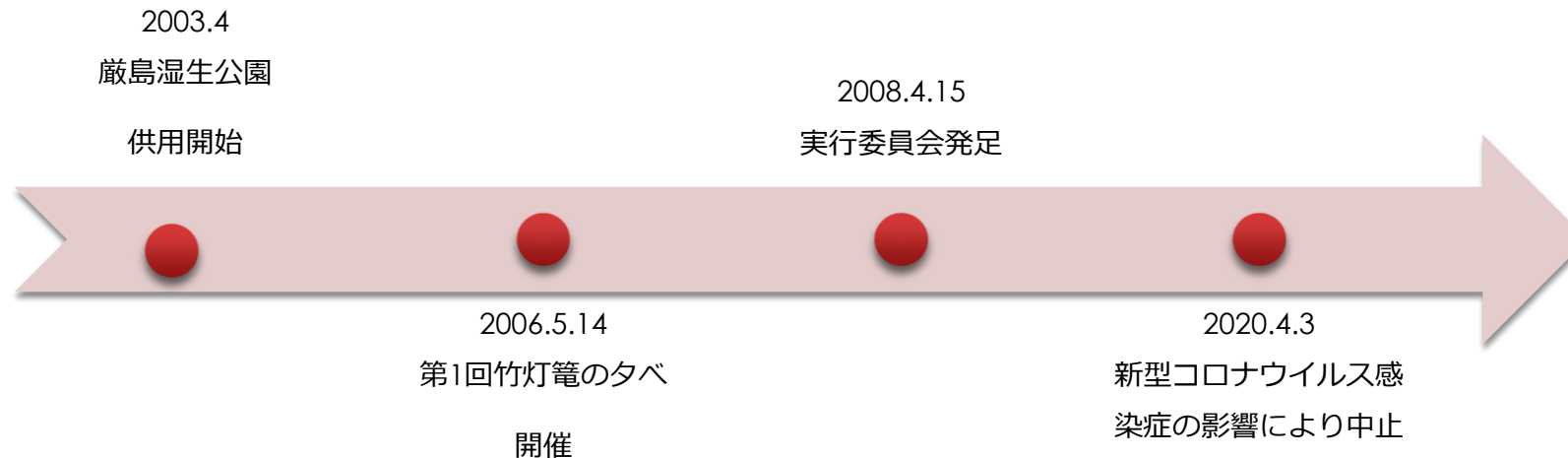
厳島湿生公園活性化事業の連絡会組織図



竹灯籠の夕べ

竹灯籠の夕べとは

- ▶ 町内の竹林整備によって出た竹を灯籠に加工し公園に並べ、その幽玄な雰囲気を楽しむイベントで竹林再生事業の一環として事業を開始。
- ▶ 第1回は平成18年（2006年）5月14日（日）に開催。現在まで14回開催しました。



竹灯籠の夕べ実行委員会

- ▶ 町内団体の代表者を中心に構成。
- ▶ 年2～3回程度実行委員会を開催。
- ▶ 事務局は産業振興課

巖島ホタルの会

会長

弁天さんの会

監事

巖島神社

中井町商工振興会

ファンクラブ

日本の竹

北窪自治会

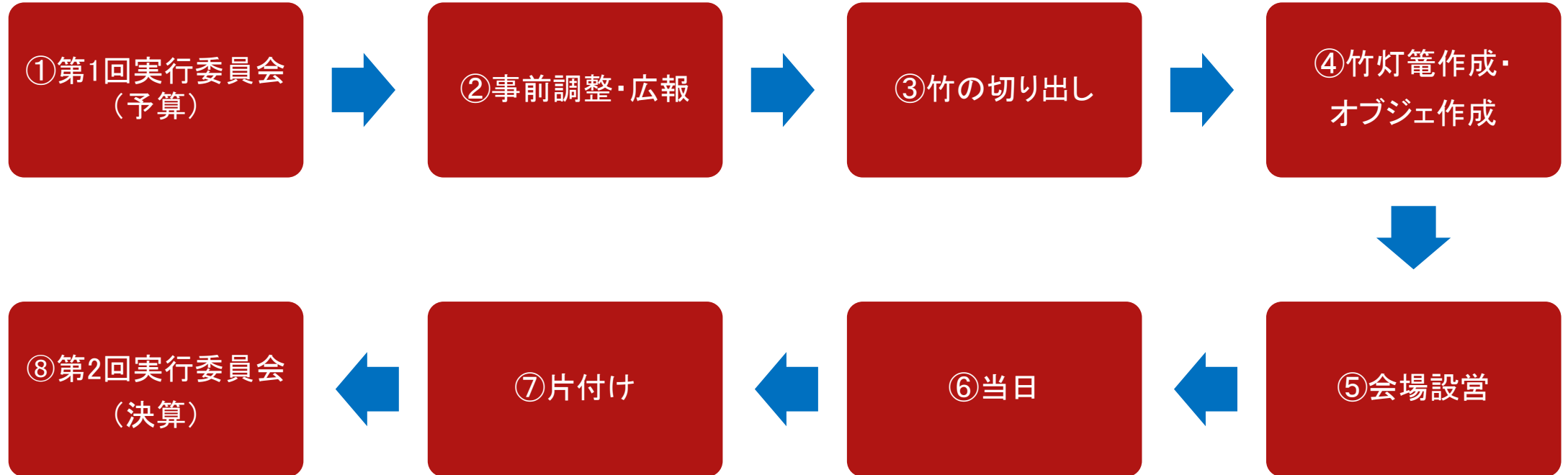
実行委員会

あかりの祭典

中井町

副会長

年間の活動スケジュール



竹の切り出し（5～7日程度）

- ▶ 町内の竹林で竹を2mほどの長さに200本切る
- ▶ 切った竹を竹林から会場へ運搬（主に職員が作業）
- ▶ 灯籠の材料にならない細い部分は、チップにして処分

<観光イベントサポーター制度>

- ▶ 有償ボランティアを募集しているが、例年、10名程度
- ▶ 職員18名が従事



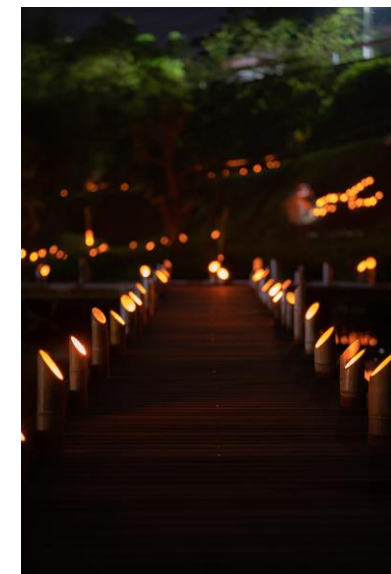
竹灯籠作成・オブジェ作成（12日程度）

- ▶ 3,000本の灯籠と数体のオブジェを作成し、設置します。
- ▶ 一般団体も参加でき、例年、町内団体、農業委員会、商工会もオブジェを作成していますが、オブジェの多くは職員が作成しています。
- ▶ 昨年の観光イベントサポーターは2名のみ
- ▶ 職員45名が従事



竹灯籠の夕べ 当日 《17:30-21:00》

- ▶ 17:30 灯籠に点灯開始
 - ▶ 18:00 開会式
 - ▶ 20:30 消灯開始
 - ▶ 21:00 消灯完了・駐車場閉門・解散
-
- ▶ 職員48名、観光イベントサポーター2名、ほか実行委員等の団体からの協力者約50名



予算（今年度）

収入		
補助金	1,079,000円	
雑収入	85,000円	祝儀等
計	1,164,000円	

支出		
報償費	15,000円	お礼
消耗品費	450,000円	ろうそく
食糧費	39,000円	スタッフ食事代
手数料	15,000円	し尿処理
借上料	131,000円	シャトルバス
委託料	514,000円	テント・トイレ
計	1,164,000円	

※テントの設営・撤去は令和2年度（2020年）より予算化しました。

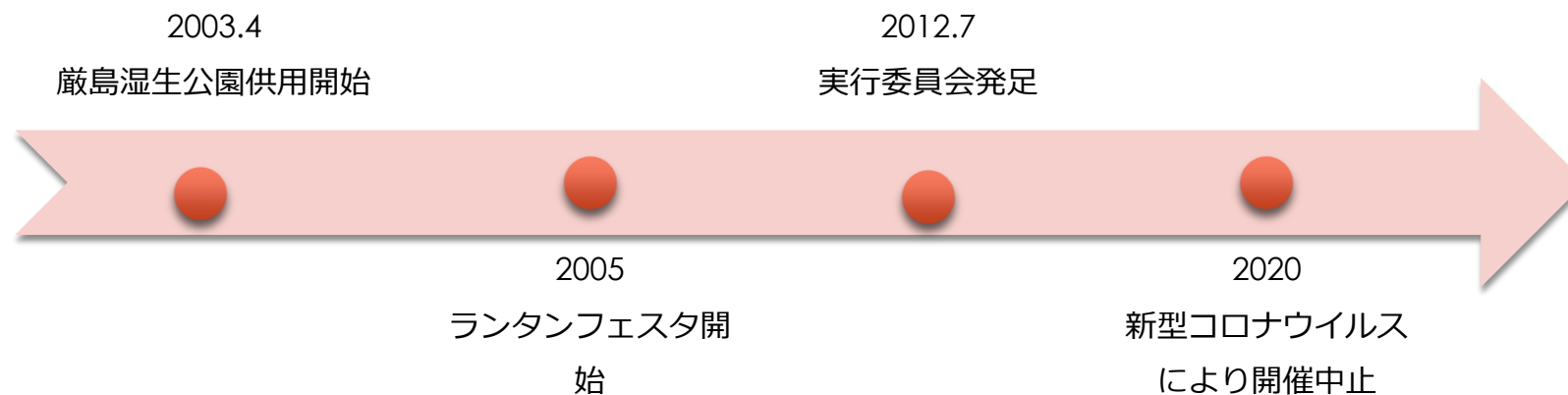
課題

- ▶ 竹の切り出し、灯籠の作成に危険が伴う（電動のこぎりの使用、竹の運搬等）
 - ▶ ボランティアの担い手がいない
 - ▶ 模擬店の行列によって通行もままならない場所があります
 - ▶ 毎年、仮設トイレを設置しているが、常設を望まれています
 - ▶ 作成するオブジェやそのレイアウトの調整が難しい
 - ▶ 準備に係る作業員の負担が大きすぎる
- ⇒協力町職員の動員回数が延べ79名（1回あたり7～8時間従事）
- ⇒業務時間 産業振興課員：545時間

あかりの祭典

あかりの祭典とは

- ▶ 厳島湿生公園の木道にペットボトルランタン、会場全体にイルミネーションを飾るイベント。
- ▶ H17～23の間に開催されていた井ノ口小学校の「ランタンフェスタ」が前身。存続を望む自治会、商店会、PTA、一部有志により第1回「あかりの祭典」をH24年（2012年）に開催。
- ▶ 現在も井ノ口地区自治会等各種団体を巻き込み有志で運営しています。



あかりの祭典実行委員会

- ▶ 有志14名より実行委員長や各役職を選任
- ▶ 自治会からも副実行委員長や監事を選出
- ▶ 事務局は産業振興課

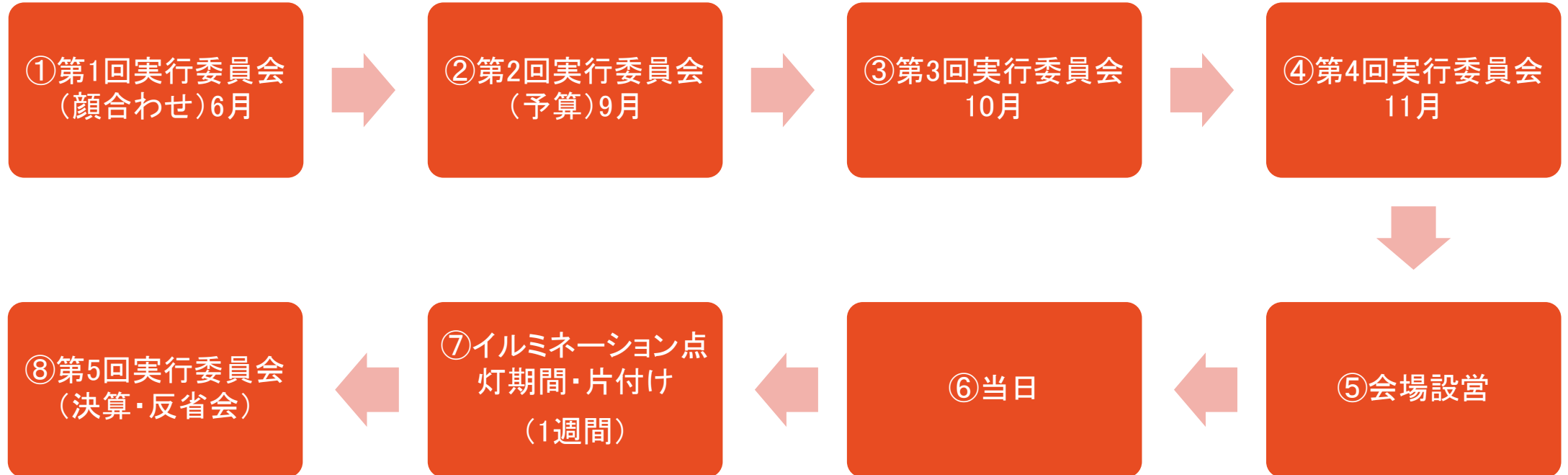
有志

(井ノ口地区のみ)
自治会

井ノ口
商栄会

中井町
役場

年間の活動スケジュール



※適宜役員で本部会議も行っています。

町の支援について

あかりの祭典は基本的に実行委員会主導で事業を実施しています。

事務局で支援・実施することは

- ▶ 補助金の交付
- ▶ 備品の貸し出し（テント、机、椅子、音響機材等）
- ▶ 仮設トイレの借用
- ▶ 一部の広報活動（小田急、神奈中、近隣公共施設への広報依頼）
- ▶ 臨時駐車場の借用・運用
- ▶ シャトルバス運行
- ▶ 保健所・消防への届出

地域の活動について

あかりの祭典は地域の合意のうえに実施されています。

- ▶ 井ノ口地区の自治会長は必ず参加することになっています。
- ▶ 中学校、小学校やこども園からの協力も得られており、夏休みの期間に合わせて各自治会でランタンを作成するのが通例となっています。
- ▶ ランタンは、自治会1,400個、小学校350個、こども園50個、社会福祉協議会40個、その他1,160個。
- ▶ 各地にランタンの作り方を実行委員会が教えに行っています。
- ▶ 当日は地域の消防団も参加。
- ▶ 模擬店は商工会、自治会で運営。
- ▶ 開会式の際には、子ども達がダンスを行っています。

あかりの祭典 当日 《16:30-20:00》

- ▶ 実行委員は午前中からランタン・イルミネーションの設置。本部廻りの設営。
- ▶ 午後からは本部、交通整理、ランタン、イルミネーションの各班に分かれて準備。

- ▶ 本 部 : 招待者の対応、迷子等の対応
- ▶ 交通整理 : 駐車場の車誘導、来場者への会場誘導
- ▶ ランタン : ランタンの点灯
- ▶ イルミネーション : イルミネーションの点灯
- ▶ 町職員 : 交通整理など17人が従事

スケジュール

16:30	開会式
16:50	点灯式
20:00	消灯

予算（今年度）

収入		
補助金	412,000円	
寄付金	138,000円	
計	550,000円	

支出		
消耗品費	255,000円	ランタン作成等
広告宣伝費	20,000円	ポスター印刷
借上料	140,000円	仮設トイレ
食糧費	40,000円	スタッフ食事代
設備機材費	50,000円	テント・トイレ
雑費	30,000円	
賄料	15,000円	来賓接待
計	550,000円	

課題

- ▶ 毎年、仮設トイレを設置しているが、レンタル料もかかり、経費削減のためにも、公園に新しくトイレの設置を望む意見があがっている。（公園管理）
- ▶ ランタンの材料で使ったペットボトルの処分が課題となっています。各家庭から出たペットボトルを自治会毎に集めてランタンにしているが、ランタンとして使用したために、資源ごみの再利用のサイクルから外れてしまう。（環境問題）

巖島湿生公園活性化の必要性

観光資源の少ない中井町にとって数少ない重要な観光イベントを行うことによって、巖島湿生公園の活性化だけでなく町の活性化につながっています。

- ▶ 今後も皆さんが楽しめるようなイベントの開催を図っていきたい。
- ▶ 事業を廃止する考え方は無い。
- ▶ 竹灯籠の夕べについては、運営方法の見直しが必要だと思われます。

来場者数と事業費

- ① **竹灯籠の夕べ** 来場者：3,000人 補助金：1,079,000円
- ② **あかりの祭典** 来場者：2,000人 補助金：412,000円

※ 補助金以外に町職員の作業負担として、1,343時間あります。

《参考》

- ・美・緑なかいフェスティバル 来場者：1万人 補助金：4,700,000円
- ・なかい健康スポ・レク祭 来場者：736人 予算：994,000円

町職員の関わり方

- ▶ 作業負担の大きさが課題となっている。
 - ⇒役場全体の従事時間 1343時間（両事業）
 - ⇒協力職員の動員回数が延べ79名（1回あたり7~8時間従事）
 - ⇒業務時間 担当課員:545時間 うち担当職員:344時間（3~6月）
- ▶ 担当課以外についても、同様の協力を強いているので、1人当たり1日程度ではあるが、確実に各担当業務に負担を与えている。（竹灯籠の夕べ）
 - ⇒担当課以外の従事時間 215時間（両事業）
- ▶ 実行委員会を構成する団体や協力者も高齢化が著しいので、円滑な世代交代が行われないと徐々に事務局の負担が大きくなっていく。（両事業）

厳島湿生公園活性化（観光事業）のあり方について

活性化を目指し、持続可能な観光事業の運営方法等の改善を検討しなければならない。

- ▶ 労働力が不足する作業を町職員で補うのではなく、地域の協力が必要（作業員の確保）
- ▶ 大きな作業の効率化（事業規模の見直し、資機材の導入など）
- ▶ 事業を継続させるためには事業費の確保が必要（作業員の雇用など）

真の実行委員会制への移行

- ▶ 「あかりの祭典」は住民主導で実行委員会が組織・運営されており、自治会や小中学校との連携もとれていて、地域活動として成り立っています。また、町民と行政の協働という面でも、連携する機運が醸成されています。
- ▶ 「竹灯籠の夕べ」に関しては、今だ、行政主導となっていますが、あかりの祭典と同様に地域活動が主となった運営を望む。それまでの間は町の支援が必要となる。